

# 野村3.5倍ブル・ベア (日本株3.5倍ブル)

## 償還運用報告書(全体版)

第2期(償還日2016年6月8日)

作成対象期間(2015年6月9日～2016年6月8日)

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。  
このたび、約款の規定にもとづき償還決算を行い、償還価額が決定いたしました。  
ここに設定日から償還までの運用経過をご報告いたしますとともに、ご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/株式/特殊型(ブル・ベア型)
信託期間	2014年6月11日から2016年6月8日までです。
運用方針	わが国の株価指数先物取引を積極的に活用し、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の日々の値動きの概ね3.5倍程度となる投資成果を目指して運用を行います。
主な投資対象	円建ての短期公社債等の短期有価証券を主要投資対象とし、株価指数先物取引を主要取引対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建て資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として利子・配当等収益等を中心に基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

## 野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104  
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## ○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額		株組 入比率	式率	株先 物比率	式率	純資 産額
		税分 込配	み金 騰落					
(設定日) 2014年6月11日	円 銭 10,000	円	—	—	—	—	—	百万円 100
1期(2015年6月8日)	26,323	0	163.2	—	—	354.5	—	4,061
(償還時) 2期(2016年6月8日)	(償還価額) 9,097.35	—	△ 65.4	—	—	—	—	1,361

\* 株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

\* 当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きの概ね3.5倍程度となることを目指して運用を行うため、ベンチマーク等はありません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	価額		株組 入比率	式率	株先 物比率	式率
		騰落	率				
(期首) 2015年6月8日	円 銭 26,323	—	—	—	—	—	—
6月末	25,014	△ 5.0	—	—	—	—	354.5
7月末	26,106	△ 0.8	—	—	—	—	396.3
8月末	18,417	△30.0	—	—	—	—	336.4
9月末	13,415	△49.0	—	—	—	—	323.3
10月末	18,327	△30.4	—	—	—	—	333.2
11月末	20,482	△22.2	—	—	—	—	355.3
12月末	17,734	△32.6	—	—	—	—	341.0
2016年1月末	12,831	△51.3	—	—	—	—	365.0
2月末	8,328	△68.4	—	—	—	—	349.7
3月末	10,058	△61.8	—	—	—	—	349.6
4月末	9,111	△65.4	—	—	—	—	348.4
5月末	10,463	△60.3	—	—	—	—	342.9
(償還時) 2016年6月8日	(償還価額) 9,097.35	—	△65.4	—	—	—	—

\* 騰落率は期首比です。

\* 株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

## ◎運用経過

### ○期中の基準価額等の推移



期 首： 26,323円

期末（償還日）： 9,097円35銭（既払分配金（税込み）：－円）

騰 落 率： △ 65.4%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首（2015年6月8日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

### ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首26,323円から期末9,097.35円に17,225.65円の値下がりになりました。

日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の日々の値動きの概ね3.5倍程度となる投資成果を目指して運用を行いました。

## ○投資環境

期首から、米国の利上げに対する見方や、ギリシャの債務問題の進展状況、中国株式市場の急落などを巡り、株式市場は一進一退の展開となりました。8月中旬以降は、中国や新興国への景気減速懸念が高まったことや、為替が円高に進行したことが企業収益への不安につながり下落しましたが、10月以降は、中国経済への懸念が後退したことや世界的な金融緩和が長期化するとの期待感から、国内相場を押し上げました。

12月以降は、日銀金融政策決定会合の内容が金融緩和への手詰まり感の表れと受け取られたことや、中国経済への懸念が再び高まったこと、原油価格下落などを背景とした世界的な株安が進行したこと、為替が円高に進行したことなどを受けて、株式市場は下落しました。

2016年1月下旬には、日欧の中央銀行における金融緩和姿勢から反発に転じましたが、2月上旬には、米国経済の先行き懸念の高まりや、日銀によるマイナス金利導入の影響により金融機関の利益減少懸念が高まったことなどから、株式市場は再び下落しました。2月末以降は、下落が続いていた原油価格に反転の兆しが見えたことなどから反発する場面もありましたが、外国為替相場の方向感が定まらないことや、中国株式市場が軟調であったことから、株式市場は一進一退で推移しました。

<日経平均株価の推移>



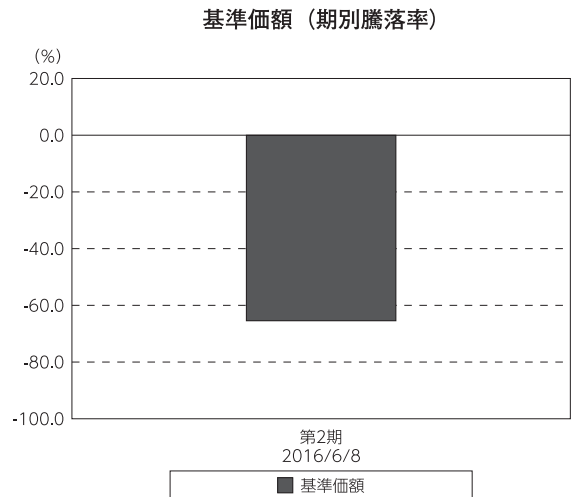
## ○当ファンドのポートフォリオ

国内の短期金融商品を組み入れると共に、日経平均株価指数先物取引を活用して日々の買建比率を350%前後に維持するように運用してまいりました。設定・解約がある場合は、設定金額と解約金額の差額分に対して、原則として、当日中に日経平均株価指数先物取引により対応を行ないました。

## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場全体の値動きの概ね3.5倍程度となることを目指して運用を行うため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



## ◎分配金

償還のため分配は行いませんでした。

## ◎設定来の運用経過

＜設定来の基準価額の推移＞



＜日経平均株価の推移＞



### ○基準価額の推移

基準価額は、設定時10,000円が償還時9,097.35円となりました。設定来のお支払した分配金は1万口当たり0円となりました。

### ○基準価額の主な変動要因

#### 第1期（2014年6月11日～2015年6月8日）

設定時から2014年9月末にかけては、中国の景気指標の改善や米国株式市場の上昇などを好感したこと、政府の成長戦略への期待感が広がったことなどから株式市場は上昇しました。10月上旬に世界景気の先行き不透明感や米国内でのエボラ出血熱の感染拡大が懸念されたことから一時下落する局面があったものの、同月末に日銀が追加金融緩和を決定したことから再び上昇しました。2015年に入っても、ECB（欧州中央銀行）の量的緩和導入や米国の早期利上げ観測の後退、国内景気の回復や企業業績の拡大期待から引き続き上昇しました。

基準価額は10,000円から26,323円に上昇しました。

#### 第2期（2015年6月9日～2016年6月8日）

期首から、米国の利上げに対する見方や、ギリシャの債務問題の進展状況、中国株式市場の急落などを巡り、株式市場は一進一退の展開となりました。8月中旬以降は、中国や新興国への景気減速懸念が高まったことや、為替が円高に進行したことが企業収益への不安につながり下落しましたが、10月以降は、中国経済への懸念が後退したことや世界的な金融緩和が長期化するとの期待感から、国内相場を押し上げました。

12月以降は、日銀金融政策決定会合の内容が金融緩和への手詰まり感の表れと受け取られたことや、中国経済への懸念が再び高まったこと、原油価格下落などを背景とした世界的な株安が進行したこと、為替が円高に進行したことなどを受けて、株式市場は下落しました。

2016年1月下旬には、日欧の中央銀行における金融緩和姿勢から反発に転じましたが、2月上旬には、米国経済の先行き懸念の高まりや、日銀によるマイナス金利導入の影響により金融機関の利益減少懸念が高まったことなどから、株式市場は再び下落しました。2月末以降は、下落が続いていた原油価格に反転の兆しが見えたことなどから反発する場面もありましたが、外国為替相場の方向感が定まらないことや、中国株式市場が軟調であったことから、株式市場は一進一退で推移しました。

基準価額は26,323円から9,097.35円に下落しました。

## ○1万口当たりの費用明細

(2015年6月9日～2016年6月8日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 195	% 1.231	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 94)	(0.594)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	( 94)	(0.594)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	( 7)	(0.043)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	25	0.156	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	( 25)	(0.156)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.003	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	220	1.390	
期中の平均基準価額は、15,857円です。			

\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

\*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年6月9日～2016年6月8日)

## 公社債

		買 付 額	売 付 額
国 内	国債証券	千円 574,536,868	千円 577,347,219

\*金額は受け渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

\*単位未満は切り捨て。



## ○派生商品の取引状況等

(2015年6月9日～2016年6月8日)

## 先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

銘柄別			買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		評 損 益
			新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	
国内	株式先物取引	日経225	百万円 156,521	百万円 165,901	百万円 -	百万円 -	百万円 -	百万円 -	百万円 -

\*単位未満は切り捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年6月9日～2016年6月8日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			B A	売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B				うち利害関係人 との取引状況D		D C
株式先物取引	百万円 156,521	百万円 156,521	% 100.0	百万円 165,901	百万円 165,901	% 100.0	
預金	72,878	72,878	100.0	72,878	72,878	100.0	

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	7,961千円
うち利害関係人への支払額 (B)	7,961千円
(B) / (A)	100.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村証券株式会社、野村信託銀行です。

## ○自社による当ファンドの設定、解約状況

(2015年6月9日～2016年6月8日)

期首残高 (元 本)	当期設定 元 本	当期解約 元 本	期末残高 (元 本)	取 引 の 理 由
百万円 1	百万円 -	百万円 1	百万円 -	当初設定時における取得とその処分

## ○組入資産の明細

(2016年6月8日現在)

2016年6月8日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ○投資信託財産の構成

(2016年6月8日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 1,726,760	% 100.0
投資信託財産総額	1,726,760	100.0

\*金額の単位未満は切り捨て。

## ○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2016年6月8日現在)

## ○損益の状況 (2015年6月9日～2016年6月8日)

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	1,726,760,623
コール・ローン等	1,726,760,623
(B) 負債	364,815,151
未払解約金	340,510,846
未払信託報酬	24,238,104
未払利息	2,471
その他未払費用	63,730
(C) 純資産総額(A-B)	1,361,945,472
元本	1,497,080,000
償還差損金	△ 135,134,528
(D) 受益権総口数	1,497,080,000口
1万口当たり償還価額(C/D)	9,097円35銭

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,181,992
受取利息	685,568
その他収益金	699,840
支払利息	△ 203,416
(B) 有価証券売買損益	81,352
売買益	△ 176,580
売買損	257,932
(C) 先物取引等取引損益	△ 490,141,687
取引益	3,398,628,551
取引損	△3,888,770,238
(D) 信託報酬等	△ 59,441,531
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 548,319,874
(F) 前期繰越損益金	150,854
(G) 追加信託差損益金	413,034,492
(配当等相当額)	( 212,381,493)
(売買損益相当額)	( 200,652,999)
償還差損金(E+F+G)	△ 135,134,528

(注) 期首元本額は1,542,920,000円、期中追加設定元本額は21,242,920,000円、期中一部解約元本額は21,288,760,000円、1口当たり純資産額は0.909735円です。

\*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

\*損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

\*損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年6月11日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2016年6月8日			資産総額	1,726,760,623円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	364,815,151円	
				純資産総額	1,361,945,472円	
受益権口数	100,000,000口	1,497,080,000口	1,397,080,000口	受益権口数	1,497,080,000口	
元本額	100,000,000円	1,497,080,000円	1,397,080,000円	1万口当たり償還金	9,097円35銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	1,542,920,000円	4,061,409,213円	26,323円	0円	0%	

## ○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込み）	9,097円35銭
----------------	-----------

## ○お知らせ

有価証券の指図範囲に新投資口予約権証券を加える所要の約款変更を行いました。

<変更適用日：2015年8月3日>